

帯織駅前における送迎車の混雑解消について

問 朝晩の通勤通学時間帯に送迎車両が駅前に駐車し、道路の通行に支障がある。JRの空き用地や駐輪場脇の市道を拡幅し、待機スペースを確保できないか。

答 JRの空き用地の開放は難しいとの返答であり、安全確保のため、駐輪場脇市道の拡幅も含め送迎車両の混雑解消策を検討したい。

小規模企業者への支援について

問 小規模企業振興基本条例の制定をすべきでないか。

答 理念条例を作るよりは、着実に施策を推進していく。

問 厳しい経営環境におかれている中小企業への支援をするために、経営改善相談体制を確立してはどうか。

答 商工会議所等で相談にのっている。利子を全額補助し、実質マイナス金利となる制度融資を実施してはどうか。

答 運転資金としてのマイナス金利

三条市の林業政策について

問 森林環境税導入による2019年配分予定の国の森林整備はどうか。

答 検討段階であり動向に注視する。

問 林業の問題と市の対応は。

答 誘致に努めた木質バイオマス発電所が昨年9月に稼働した。循環型林業の構築に期待し、補助事業の活用を支援していく。

公共下水道と汚水処理等の現状について

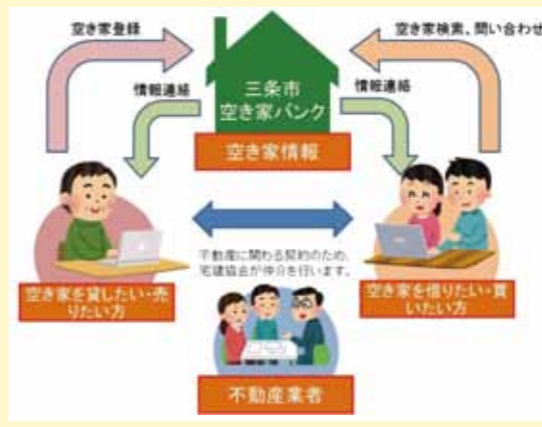
問 今年2月に策定された三条市汚水処理施設整備構想において、公共下水道の全体計画面積が大幅に縮小されたことで、今後ますます個別処理、合併処理浄化槽の役割が大きくなっていくと考える。現在、単独処理浄化槽を利用している家庭も多い中、市内において単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換を促進していくため、助成金等を含めどのような取り組みをしているのか伺う。

空き家対策について

は抑制的であり、実施の予定はない。

問 空き家バンクの活用をもっと進めるべき。「管理不全の空き家」についての対処は。

答 1軒でも多く空き家バンクに登録いただけるよう努めたい。管理不全の空き家については、所有者に改善するよう粘り強く助言、指導をしていく。



大豆加工品の開発を

問 大豆加工品を開発してはどうか。

栄公民館の運営について

問 「エンレイ」中心から「里のほほえみ」への作付け転換を進めている。12月から「里のほほえみ」を使ったこだわりの豆腐を販売開始した。

問 公民館長は専任にして職員も増やしてはどうか。

答 現在の体制で運営していきたい。

減反廃止に伴う農業について

問 農業法人および担い手による農地の集約の進捗状況は。

答 29年3月現在で平均集積率は65.8%、下田地域46.7%、三条と米地域では72.5%である。

問 平場と中山間地の農業所得の格差は。

答 中山間地の経営面積は1.36畝、平場は2.29畝であり、所得は85万7000円に対し135万6000円である。

問 中山間地の農業の廃業による遊休農地の固定資産税の評価は。

答 農地法に基づき遊休農地の勧告を受けた場合、平成29年度から

中学生を毎年広島へ！

問 正職員への道を広げるため、職員採用の年齢枠を拡大してはどうか。

答 保育士確保のため25歳から35歳と広げたが、今後年齢枠の拡大は考えていない。

問 中学生を毎年広島へ！

問 三条市は、非核平和都市宣言を行い、平和市長会にも加盟している。国連で核兵器禁止条約が採択されたことでもあり、中学生の広島派遣事業を5年に1回ではなく、毎年実施してはどうか。

答 派遣事業の間隔は見直しを考えていない。ただ、未来を担う世代に平和の大切さを伝えていくことは着実に実行していく。



非核平和都市宣言

報道の多い過重労働について

の評価方法の変更に伴い負担は1.8倍となる。

問 三条市の教職員の実態は。

答 60時間を超える超過勤務は小学校18%、中学校では42%である。義務教育学校大崎学園への対応は、県に追加教員の配置を要望する。



工事が進む大崎学園

就学援助、入学準備金の支給今年度から3月支給に改善！

問 新入学時など援助が必要なときに速やかに支給すべきだ。支給時期の変更は怎么样了か。

答 平成30年3月1日時点で認定されている保護者に対し、中学校入学前に支給できるよう準備している。

公共施設インターネット予約サービスについて

問 利用しやすくしてはどうか。

答 現在、長崎県のシステムを導入し、市内35施設を一元的に管理する機能がある。利便性が向上するよう機能改善を要望したい。

大河津分水路の改修工事について

問 分水路の拡幅、山地部の掘削など全体事業費1200億円、工事期間18年間となる大工事である。三条市への効果はどうか。